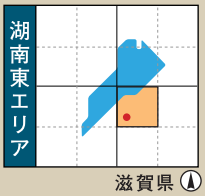
天然記念物

国指定

平松のウツクシマツ自生地

甲西町平松　大正10年3月3日指定



ウツクシマツはその名のとおり美しい樹形の松で、江戸時代には東海道名所図絵や伊勢参宮名所図会などで広く紹介されています。アカマツの一種で、あの針のような葉の形や樹皮はほぼ同じですが、根に近い低いところから幹が分かれ出ているところに特徴があります。上部は、まるで傘を広げたような葉の緑が鮮やかで、微妙なうねりを見せながら上に伸びる枝の細いラインは、たおやかな女性を連想させます。



ウツクシマツ

ウツクシマツの自生地

ウツクシマツは、甲西町平松の海抜約230mある美松（びしょう）山の山中、海抜約180～225mの南東斜面部分に自生しています。この自生地にあるウツクシマツは、高さ7～10m、幹囲2.5～2.8mくらいのものが大半を占めています。ここには他にも、ソヨゴ、ネジキ、コナラ、ヤマウルシなどが混生しています。

また林内には、コバノミツバツツジ、ヒサカキ、ネズミサシなどの低木類や、コシダ、イワカガミ、ノギランなどの草本類が生育しています。



自生地遠景



典型的なウツクシマツ



分かれる幹

［東海道の名所・ウツクシマツ］

ウツクシマツは古くより東海道の名所として知られていました。文化11年（1814）の近江名所図絵には「平松村　此村の右の方の山に美し松といふあり。一山凡（およそ）二町餘（あまり）の間不殘（あいだのこらず）雌松にて、其（その）生ふる形一樹にして根本より數（すう）十幹を出す。甚（はなはだ）奇観なり。」と記されています。



ウツクシマツの樹林

保護活動と調査研究

地元では昭和38年（1963）に「平松ウツクシマツ自生地保護会」が結成されるなど、ウツクシマツの保護に力を注いできました。昭和53年の全国的な松食い虫の大発生での被害を受け、「天然記念物平松のウツクシマツ自生地保護対策委員会」が設置され、樹勢の回復のための取り組みが行われています。

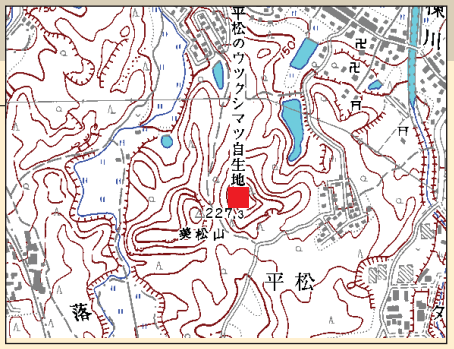
ウツクシマツは、種子からの発芽は良好なのですが、育成に適した開けた場所が林内にあるにもかかわらず、若木が育ちにくい状況となっていることから、この貴重な林を守り伝えるため、後継樹の育成に対する調査や研究も行われています。

関連する文化財

鵡川ゴヨウマツ自生北限地帯（北海道厚沢部町）	生育数は少ないものの、日本海北部の五葉松の自生地として貴重
幌満ゴヨウマツ自生地（北海道様似町）	幌満川の渓谷に沿い、険しい山壁に150年から200年生の五葉松を始め、トドマツ、アカエゾなどが群生する
小野のシダレグリ自生地（長野県辰野町）	クリから偶然に変化した特異な樹形を持つシダレグリが自生している地域。天狗のクリと称して地元の人が触らなかったため残った

もっと深く知りたい

甲西町教育委員会　☎0748-72-1290　甲賀郡甲西町中央1-1



平松のウツクシマツ自生地へのアクセス　JR草津線　甲西駅下車

【参考文献】〔日本の天然記念物〕講談社　〔滋賀縣天然記念物調査報告〕滋賀縣保勝會

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月